

鏡石町公私連携幼保連携型

認定こども園整備計画を策定

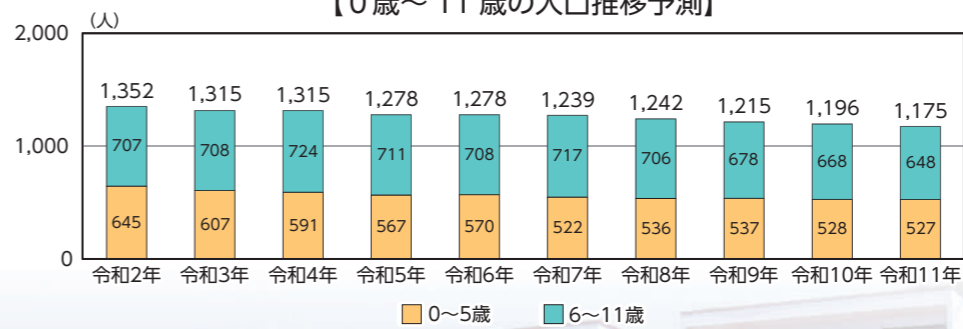
急速な少子化や核家族化、また就労形態の多様化により子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。そのような中、町では子育てと仕事の両立できる支援体制づくりを推進するため認定こども園の整備を検討しており、昨年整備計画を策定しました。今月号ではその内容についてお知らせします。

子どもを取り巻く現状

本町の子どもの人口の推計については、0～5歳では、令和11年には527人と推計され、令和6年の570人から43人（7.5%）の減少が予測されています。また、6～11歳では令和11年には648人と推計され、令和6年の708人から60人（8.5%）の減少が予測されています。今後も引き続き、全国的な少子化同様、本町の子ども人口についても減少していくと予想されています。幼施設の入園状況については、私立認定こども園の整

備や幼児教育無償化に伴い、共働き世帯が0～2歳児から私立施設への入園を選択する傾向にあります。また、令和8年度当初から特に0歳児で、待機児童が発生しており、人口減少しているにもかかわらず、保育需要が高まっているのが特徴的です。なお、鏡石幼稚園と鏡石保育所への入園児童数については、施設の老朽化や私立幼稚園の認定こども園の整備に伴い年々減少しており、運営が難しい状況になっております。

【0歳～11歳の人口推移予測】



鏡石保育所



鏡石幼稚園

※「鏡石保育所」公私連携型保育所としての経過

H28 公設公営

7月 民営化計画策定
11月 民営化計画公表

H29 公設民営（業務委託）

4月 保育業務等委託開始
平成30年1月 保育所の運営に関する協定書を締結

平成30年3月

3月議会で鏡石町保育所条例を廃止する条例が議決

H30 民設民営（公私連携型）

4月 鏡石保育所が公私連携型保育所へ移行

認定こども園整備計画を策定

そのような現状から町では鏡石幼稚園と公私連携型鏡石保育所（※）の両施設を再編し、認定こども園へ移行するため昨年度整備計画を策定いたしました。計画の策定にあたっては、保護者や園で働

ている職員の意見や要望をできる限り取り入れました。策定計画の主な基本方針は次のとおりです。

●教育・保育方針

幼児教育・保育方針の変更や幼稚園教諭・保育士の大幅な入れ替わり等で、保護者や子どもたちが不安を感じることがないように、従来の鏡石幼稚園・鏡石保育所での教育・保育方針を維持しながら移行していきます。

●施設整備

現在、公私連携型保育所として鏡石保育所を運営している町社会福祉協議会が、こども園を整備することが、施設運営や施設整備にかかる国等の各種補助金があるためメリットが大きいと考えます。なお、町立の施設については、国・県からの補助制度は多くありません。

●運営主体

認定こども園の運営先は引き続き、町社会福祉協議会を予定しています。町は社会福祉協議会に町職員を派遣し一

整備予定地



体的な福祉事業を展開していきます。このことから、町との密接な連携による認定こども園運営が期待できます。

●児童の受け入れ体制

3歳児～5歳児は現状の利用率に合わせながら、0歳児～2歳児の定員を充実させ、保育需要の低年齢化に対応します。

認定こども園の整備予定地については、現在の鏡石保育所のある場所での建て替え拡張が、面積制限などにより困難で、さらに駐車場の確保等を考慮した結果、鏡石駅東側の旧老人センター跡地を整備候補地として検討しています。

【スケジュール】

年度	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
鏡石保育所の公私連携幼保連携型認定こども園	町・社協にて協議	基本設計	実施設計 建築工事	→	開園
鏡石幼稚園	新規・継続受付	→	→	→	廃園

スケジュール

計画中の認定こども園については、令和10年度の開園を目指して、関係機関と協議を重ねながら事業を進めており、鏡石幼稚園については、開園後に廃園とする予定です。